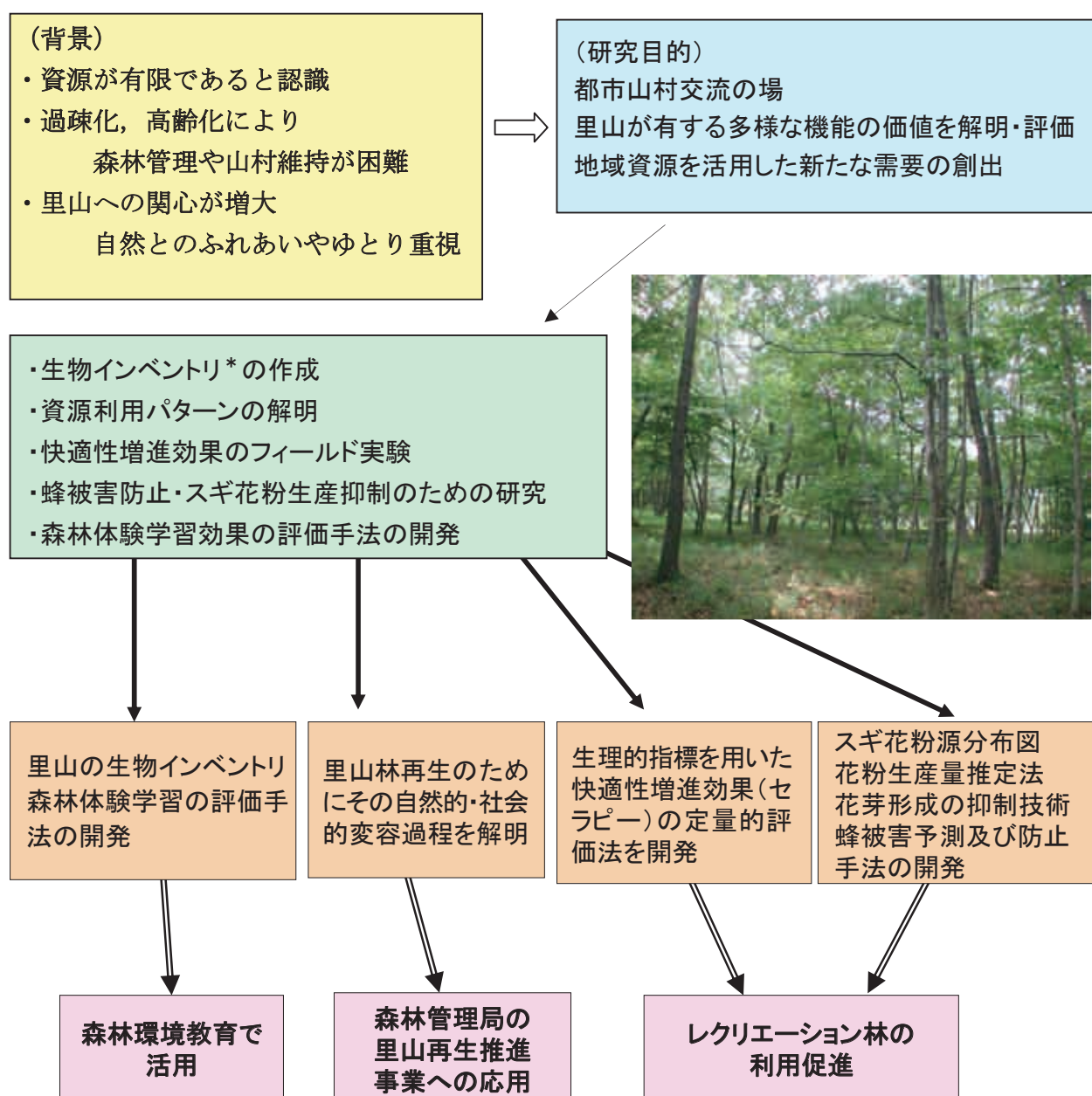


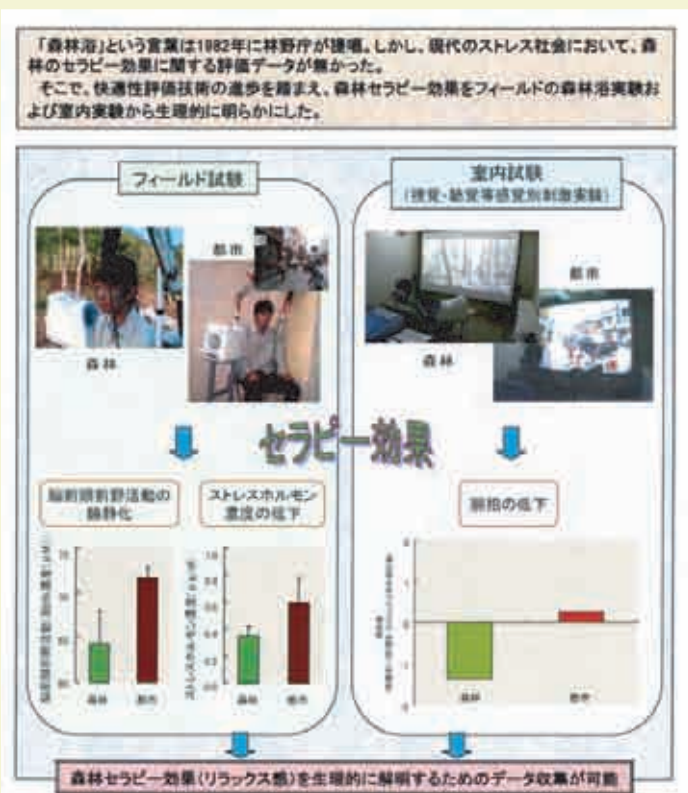
キ分野 森林の新たな利用を推進し山村振興に資する研究 (ア) 里山・山村が有する多様な機能の解明と評価

背景と目的

里山は人々との結びつきが最も緊密であったふるさとの原風景であり、現在でも食料生産、環境保全に有効に機能する地域でもありながら、人口減少による山村の衰退や森林の荒廃が進んでいます。この多様な機能を持つ里山の森林の新たな利活用を目的として、その成り立ちや仕組み、多様な機能の科学的な解明をめざしました。



森林セラピーを世界で初めて生理的に明らかに



快適性評価技術の進歩を踏まえ、森林セラピー効果をフィールドの森林浴実験及び室内実験から生理的に明らかにしました。

森林環境教育機能の解明



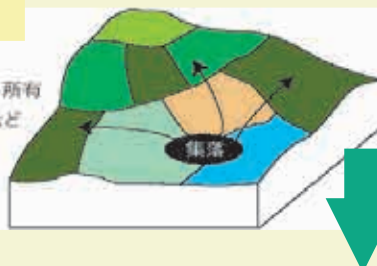
環境教育素材として動植物が果たす役割を明らかにするとともに、森林の利用と森林環境教育のために、「森林環境教育林の手引き」を発行しました。

里山における資源利用のパターン

里山林を形成する各植生パッチの利用履歴、管理方式・利用を制御していた過去の社会的仕組みの解明



集落からの距離、所有形態、地形条件などによる一定のパターンの存在が明らかとなった



現代的な需要が高い資源活用のための優先度、および適地判定が可能に

里山林の資源を活かした山村の振興



*については、巻末の用語解説をご覧ください。